

ポポーが繋ぐ地域の輪



岩沼市^{きたはせ}北長谷地区の宍戸幸次さん（69）は「幻のフルーツ」といわれるポポーの特産化に挑戦している。

栽培のきっかけは、2014年に市内で知人が育てていたポポーを試食したことだ。ねっとりとした食感の果肉や独特の甘さと香りに衝撃を受けた。翌年3月に苗木を購入し地元の仲間9人で栽培を始め、201

9年に岩沼ポポープロジェクトを立ち上げた。

設立後に取り組んだのが、ポポーの商品開発。熟成した果実は傷みやすく日持ちしないため生果での流通が難しかった。

課題解決のため、加工品での販売を検討し、名取市のジェラート店に協力を依頼。2020年7月にポポージェラートが完成した。ジェラートは市内で販売しており、ふるさと納税の返礼品にも採用されている。

宍戸さんのポポーは地元企業や研究機関にも注目され、酒の開発や種なしポポーの研究が進んでいる。「個人でやるのもよいけれど地域全体で取り組みたい」と語る宍戸さん。ポポーの収穫は9月中旬から約1ヶ月間続く。

